「ことばの遅れ」とは？(2)

言語聴覚士
中川信子

「ことばの三つの意味」

前回考えたことを含めて行きつ戻りつしながら考えます。お付き合いください。

「ことば」には三つの意味があります。(図1)

1) **音声言語　言えることば**
2) **言語知識　分かることば**
3) **コミュニケーション　伝えたい気持ち**

お子さんの「ことばが遅い」という状態も右記三つの要素に照らして考える必要があります。

まずは

【1】「言えることば」が出ていないか少ないが、理解・コミュニケーションともに良好な場合。

今回はこのうちの【1】と【2】です。前回の続き、補足になります。

【1】「『言えることば』が出ていないか少ないが、理解・コミュニケーションともに良好」とは？

《理解良好》の内容

1)「音声言語のみでの理解が良好」

ジェスチャーや指差しの手がかりなしに「ことばだけ」で話しかけたときに反応してくれる場合。

2)「ことば＋手がかり」での理解が良好。

ジェスチャーや実物の提示など視覚的手がかりの助けがあれば理解できる。ここまでは前回述べました。

この2)の場合は、ジェスチャーや指差しを意識的に増やすなど、視覚的手がかりが多く、子どもにとって分かりやすい生活を工夫することが大事です。そうこうするうちに、徐々に音声言語のみでの理解力が向上し、発語の増加も期待されます。

ただし、念のために、耳は聞こえているのかな？という視点での問診・観察は必要です。耳の聞こえの問題かな？注意の向け方の問題かな？という視点を持ってフォロー対象とする必要がありそうです。

《コミュニケーション良好》の内容

コミュニケーション良好と判断するポイントは「指差し」「視線」「表情」です。

1) 音声言語は使えないが、ジェスチャーや指差し、表情で要求を伝えてくる（伝達意図が明確）。
2) 表情豊かで、子どもの気持ちや要求が読み取りやすい。
3) 視線がしっかり合い〝心が通じている〟実感がある。

図1

「ことば」三つの意味

	水鉄砲にたとえると
①言えることば（音声言語・Speech）	←水鉄砲の口から出る水
②分かることば（Language・概念・言語知識）	←タンクに入っている水
③コミュニケーション（伝えたい気持ち・交流・共有）	←引き金を引く力

【2】「言えることば」が出ていないか少ないが、保護者は「何でも分かっている」と見ている。実際には理解・コミュニケーションの片方または両方がよくない。

【3】「言えることば」が出ていないか少ないだけでなく、理解もあやふやである。

4）何かを発見したときなど振り向いて大人と目を合わせる。指差ししつつ、大人も一緒にそれを見ているかどうか確かめる。

【2】「『言えることば』が出ていないか少ない場合で、保護者は『何でも分かっている』と見ているが、実際には理解・コミュニケーションの片方または両方がよくない」

たくさんの子どもを見ていると「あれ？　この子はちょっと気になるな？」と思うことがありますが、その「気になる」について、もう少し掘り下げてみましょう。でも、最初からすべての子どもに対してこういう見方をしてしまうと、どの子もみんな気になってしまう危険性もあって、そこが難しいところですが。

1）気に入ったこと、自分の興味に合致した狭い範囲のことについては理解しており、指示に従えるため、保護者が「何でも分かっている」と考えるような場合。

例えば「『ごみポイして』というとやってくれる」ので保護者は「ああ、よく分かっている」と思うのです。でも、その実、ゴミをポイすることがパターン化されたお決まりの行動（こだわり）なので、喜んでやってくれているのかもしれません。

「チャイムが鳴って『あっ、パパだ！』と私が言うと、玄関に飛び出して行くので分かっていると思います」と言われる場合もあります。「チャイム→玄関　玄関→男性　男性→抱き上げてくれる　刺激が快い」という図式化された断片的理解で走り出て行っているだけなのかもしれないのに……です。

「チャイムの音→パパ」
「パパ→好きな人」
「チャイムの音→パパ（＝好きな人）が帰って来た→うれしい！」と期待を持って走り出て行くのが「全体的に状況を理解しての行動」ということなのですが。

つまり、ある特定の場面で、見た目には一対一対応の行動ができたとしても（例「チャイムの音がした→玄関に走って行く」）、その子の中でどのような思考が行われているのかを見極める事が大事なのです。

外界がどのように成り立っているのか、その全体像を把握しようとする方向での外界理解と、それに伴う感情との両方が共同歩調で進んでいるのかどうか、です。それがない場合には、将来のことばやコミュニケーションの伸びが制限される可能性も出てきます。

コミュニケーションに必須な相互性

また、コミュニケーションには相互性が大切。「自分がやりたいことをやる」（＝ゴミをポイする）だけでは、コミュニケーションが良好に成立しているとはいえません。相手が提案したり提示したり、やったことや他者からの働きかけ（「ゴミポイして」「そのリンゴ、先生にちょうだい」とか「ほら、飛行機来たよ」など）に対して自分の構えを相手に合わせて変えていくといった柔軟性に乏しいと感じられる場合は、

①単なる性格的なマイペースなのか
②広汎性発達障害の範疇に入るなんらかの〝障害〟の兆しなのか
③知的な理解が不十分で、言われていることが分からないために応じないのか
④応答性の少ない環境で育てられているための一過性の反応なのかを見ていく必要があります。

④の「応答性の少ない環境」とは、テレビ・ビデオを見せっぱなしだったり、保護者がメールやパソコンに夢中で子どもからの働きかけに適切な応答を返してやれていない状態や、また、子どもの気持ちに合わせたことばかけが上手にできない、かかわり上手でない親である場合も含まれます。

このように、スタッフ側としては「あれ？」とちょっと気になる子で、保護者が「何でも分かっています」と言われる場合には、保護者の「何でも分かっています」を鵜呑みにしないでさらに情報収集します。「ほら、飛行機来たよって指差すと《一緒に》見ますか？」「このお手紙をパパに持って行って、と言うと持って行ってくれますか？」など、具体的に生活場面が想像できるような補強質問で確かめておきましょう。

外界をまとまりをもって理解すること

さて、ここで【1】の「理解良好」をもう一度振り返ってみてください。「この子はよく分かってるね！」「理解良好！」と太鼓判を押せる子たちは、ことばを知識として知っているだけでなく、そのことばが使われる状況などの広がりを含めて「把握」「理解」していると思いませんか？

例えば……

おもちゃで楽しく遊んでいるところへ「そろそろお片付けしようか。お帰りするよ」と声をかけると、とたんにはっとした顔になり（これで、お耳は聞こえている！と分かります）、明らかに「イヤだ！」といっている表情になり（感情がすぐ表情に出ます。分かりやすい表現です。読み取りやすい）、持

っているおもちゃをギュッ！と握りしめたり、おもちゃを握りしめてママの後ろに隠れたりする子がいますよね。

そういう場合、私たちは「この子は、よく分かっているわ」って判断します。それは、「お片付け＝おもちゃを元の容れ物にしまうこと」を意味していると分かっていて、「片付けると、もう、その後は遊べなくなる」「楽しい時間が片付けによって終わってしまうのだ」ということを見通して理解できているからであって「背後の現実世界の広がりを含めて、ことばを理解できている」と考えられるからです。

分からんチンの時期

「お片付け」を例にとってしまったので、ついでにお話しすべきことが出てきてしまいました。余談ですが。

今お話ししている1歳代・2歳代ですと、ことばの理解はできていても、自分の気持ちをコントロールできない年齢相応の分からんチンがたくさんいます。特にお片付けなどという場面の切り替えは一番大変です。いわゆる「テリブルツー」、おそるべき2歳児、困ったチャンということですね。

そういう困ったチャンの時期があるとしても、時間経過と共に順調に経過していける子もいれば、年齢が進んでも気持ちや行動をコントロールしにくい状態が続く、AD／HDの可能性もありうるというところがやっかいです（表1）。

一時的な観察だけで判断できないので何かと機会を見つけては親御さんの気持ちを聞き取ったり、遊びの中で子どもの様子を追ったりする必要がありそうです。

さて、前回「理解にムラがある」という言い方で表現したことを含めて、あらたな図を描いてみました。（図2）

「言えることば」「分かることば」「コミュニケーション」をつなぐのは「伝えたい気持ち」「相手への注目」です。

分かることば・言語理解の発達を進めるのも、やはり「相手への注目」です。相手の方に目を向け、相手が言うことばに耳を傾ける（〝注耳〟ということばはありませんが、そういう感じ）ことだからです。聴力も大事な要素ですが、「音が聞こえる」だけでは「ことばを聞き取る」ことにはなりません。

そのために必要不可欠なのが「注意attentionを上手に向ける能力」です。

言語理解・コミュニケーションをつなぐ「外界に適切に注意を向ける」ことや、「伝えたい気持ち・人への注目」を育てるのは、興味が持てる楽しい遊びですって言ったら、あまりに結論を急ぎすぎたことになるかもしれませんが、でも、私が言いたいのはそういうことです。

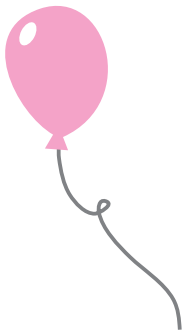

図2

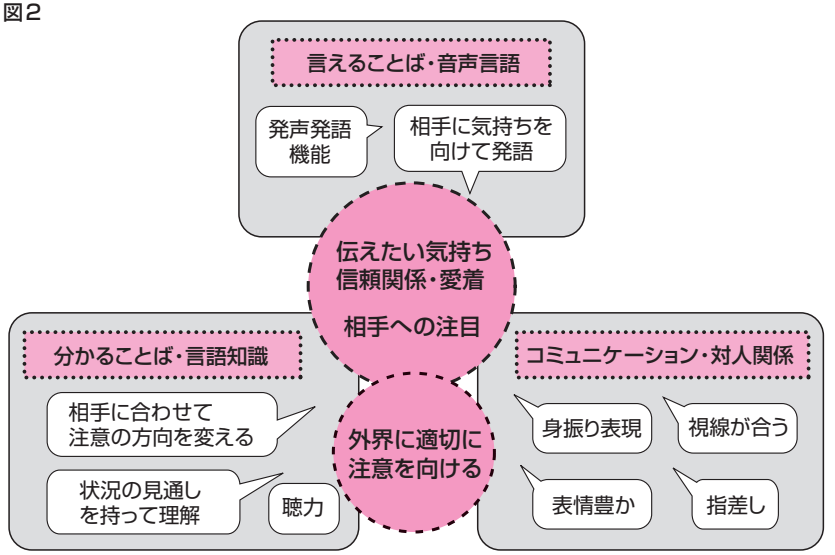

表1　1－2歳代の「気持ちの切り替えができない」状態

問題点	どんな状態？	考えられること	結論へのヒント
1－2歳代 なかなか指示に従えない 気持ちの切り替えが難しい	○ 目で見て分かるような働きかけを工夫すると混乱が少ない ○ 「だまし」がきく・きかない ○ 尋常ではない混乱ぶりが目立つ ○ 抱いたり言い聞かせたりしても通じない ○ 一度興奮するとなかなか収まらない	◇言語理解が未熟な状態 ◇そのことを続けたい気持ちがとても強い（2歳児特有の“こだわり”とも言える行動） ◇日ごろ大人の都合に無理やり従わせていて、十分気持ちに寄り添ってもらっていない ◇興奮しやすく収まりにくい性向（いわゆるdifficult child 育てにくい子）	時間経過と共に収まっていく場合 ⇒発達途上の一時的な困ったチャン 対応を変えても効果なし、3歳を過ぎても状態が改善しない ⇒神経系になんらかの問題がある可能性？AD／HD？　知的な遅れ？